

## 祭礼の実施状況（近年の状況：R4～R6）

※ ▲は実施しなかった、または簡略化して実施したことを示す。－は未調査。

※令和4・5年は両當屋とも仮、小忌人・供人・ササラ・當為知は不在。 令和6年の青柴垣は両當屋・客人當が仮。小忌人・供人・ササラ・當為知はあり。 ☒

整理番号	特殊 神事名	日程 下線:本祭	時間	行事名	内容	場所	実施内容	R 4	R 5	R 6		
1	青柴垣神事	1月11日		やくにんぞろ 役人揃え	小忌人・供人・ササラ・當為知・綱調べ	神事会所	両當屋不在のため、當屋に付随する役も不在で開催	－	－	▲		
2		3月1日		神事協議会	祭礼の経費、運営方法を協議	神事会所	別日に実施	－	－	▲		
		3月18日	午前中	トコロ採り	山に自生するトコロを採りに行く	軽尾までの山中	3月中・下旬、場所は特に決まっていない	－	○	○		
3		3月28日		人別下調べ(客調べ)	人別はこの時点で殆ど終わる	當屋宅		－	－	－		
4		3月31日			上準官帳届	頭人が3月31日時点での上・準官名簿を神社へ届ける。	社務所		－	－	○	
5					しちなだしお 下灘潮カキ ろくしやほい 六社参り	S49記録では、ササラを供にした。	下灘・六社	実施せず	－	－	▲	
6			7:00		りょうとうやかぐらさんろう 両當屋神楽参籠	當屋の神事会所参籠。これより世俗との関りを断つ。約2週間に及ぶ神事の始まり。	拝殿→神事会所	仮當屋のため行わず	－	－	▲	
7			22:00		トーマー	午後10時頃消防団を中心に「明日はお祭り始めてござる、トーマー」と触れ回る。	地区内		－	○	○	
8			4月1日	10:00		人別式	「祭り始め」と意識される行事。上準官を「一」「二」に振り分ける儀。	神事会所		－	－	－
9						大棚組	神事会所に両當屋の大棚(祭壇)の骨組みなどを行う。大棚を葎い、祭器具の準備をする。	神事会所		－	○	○
10					トコロ洗い	両當屋が通航して、輪切りにして供物籠に入れるトコロ(野老)を海水で清める。	灘		－	－	○	
11					鑽火	頭人が中心となり、二日以降に米などを蒸すための神聖な火を切る(日切石)	御釜屋・神事会所前		－	○	－	
12		18:00			粉はたぎ	両親がそろった家の少女、ササラ、供人ほか白米を砕き、粉にする。	神事会所	実施せず、市販品(餅粉)を使用	－	－	▲	
13		4月1～4日		かごつくり かみざいく 籠造・紙細工	竹製の供物籠や装飾の紙をつくる。製作技術は上準官の中で伝授されている。	神事会所	1日参加人数5名、2日参加人数14名	－	○	○		
14		4月2日	9:00		人別届	頭人「一」「二」に分けた上準官名簿を神社へ届け、報告する。	社務所	前日の人別を頭人が羽織袴で社務所へ持参	－	－	－	
15			9:00		もちつき 餅搗	鑽火で起こした火で餅米を蒸し、役前以上の者が餅を搗く。	神事会所	最初は頭人、後は交代でつく 糯米22kgを使用	－	－	○	
16			9:30		とりづく 酉造り	「粉はたぎ」で粉にした米粉を蒸し、鶴や亀などの供物を作る。	神事会所	米蒸の火・蒸籠をそのまま使用、餅つきと同時進行 粉はたぎはせず、市販品を使用	－	－	○	
17			10:50		トコロ蒸し	4月1日に「トコロ洗い」で清めたトコロを会所前で蒸す。	神事会所前	米蒸の火・蒸籠をそのまま使用、餅つきと同時進行	－	－	○	
18			午前中			仕事納め	神事会所	籠造・紙細工などの作業終了	－	－	－	
19		4月4日	午前中		才浦潮カキ	宮司以下神職、役前などが海で身を清める。祭り初めを迎える区切りとして重要な位置づけ。	才浦、灘屋で接待を受ける	神職、頭人に見学を断られる	－	－	－	
20		4月4～6日	午後		御船絡	御船を灘で組み立て、神事に飾る。	灘	「シモト」は従来雑木を切り出したが、今回より製材を使用	－	▲	▲	
21		4月5日	午前中		當屋志願者届及び客人當資格者届	頭人が神社へ届ける。	社務所	実施せず	－	▲	－	
22			8:30		鑽火	役前以下により火打石で火がつけられる。この火で酉揚が行われる。	御釜屋・神事会所前	火は4月1日に鑽ったものを神社で保管している	－	▲	－	
23					おとこほしも 男柱立て	神事会所玄関口に男柱を立てる。役前、上準官の家に幟が立てられる。	神事会所玄関口、役前・上準官宅前	朝には既に男柱は立てられた状態であった	－	▲	－	
24			10:00		したも 佐賀の下盛り	御船に持ち込む供物を1点1点読み上げ、宮司が点検する。	神事会所	社務所より大きな屏風を借りてきて会所中央に立てる	－	○	－	
25			11:00		とりあ 酉揚げ	宮司が酉を油で揚げる(昭和初期には當屋が揚げていた)	神事会所	サラダ油を使用、油にくぐらせる程度	－	○	－	
26			12:00		大棚飾り	神饌籠が完成すると大棚を飾りつける。最後に蝶形扇を三扇飾る。	神事会所	大棚、オハケは同時進行	－	○	－	
27			12:00		おはけ 御祓解(オハケ立て)	オハケを一の當屋側から男柱に結びつける。男柱には大龍が取り付けられている。	神事会所前	大棚、オハケは同時進行、神職が清める	－	○	－	
28					やくにんぞろえ 役人揃	宮司の御籤によって青柴垣神事の諸役を決める。	神事会所	祭器を持つ諸役を決める 人手が不足のため準官以外が祭器を持つこともある	－	▲	－	
29			12:00		そうふるまい 総振舞	神職や各役を担う上準官が集まり、饗応がなされる。	神事会所	弁当が配られ、饗応というより屋敷食の場	－	▲	－	
30					甘酒作り	本来は當屋を中心に作られるが、現在は世話人を中心に作られる。	神事会所	仮當屋のため行わず	－	▲	－	
31			19:00		しゅうらい 習礼(習幣)	習幣は夕方に神職立ち合いでなされる。神事当日の各役の所作稽古である	神事会所	習幣を使い、奉幣の練習をする、小忌人の背負い、ササラの踊りや行列など予行演習。 (R5) ササラ、小忌人等なし	－	▲	○	
32	20:30			ぼっかいそう 祓解奏	祓解奏は各役の祓いの儀式。終わると神事会所で神酒三献を行う。	祓解奏は拝殿→神事会所	(R5) 小忌人など不在のため両當屋のみ行う。 (R6) 両當屋の代わりに世話人が行い、小忌人、供人、ササラ、當為知と続く。	－	▲	▲		

整理 番号	特殊 神事名	日程 下線:本祭	時間	行事名	内容	場所	実施内容	R 4	R 5	R 6	
33	青 柴 垣 神 事	4月5日	21:00	トロー	トローは、深夜に青年たちが太鼓を叩きながら地区内を巡る。	地区内		—	○	○	
34		4月6日	10:00～ 夕方	みふねつなぎ 御船絡	御船を神事用に飾る。材木を4本立て青柴垣を作る。	港、下灘→六社参り→神事会所→神社		—	○	○	
35			午前中	ごろう ほうせい 御供奉製	旧巫女家が宵祭に供える御供76台分の米を蒸し、椀に盛る。	神事会所	旧巫女家周防家の女性が神社から依頼を受ける。	—	○	○	
36					役人届	頭人、上準官の神事当日諸役を神社へ届け、報告する。			—	—	—
37			夕方	下灘潮カキ	夕方、當屋は小忌人・供人・ササラ・當為知を従え下灘で潮カキを行う。その後、神酒三献して六社参りを行う。	下灘→六社参り→神社	実施せず	—	—	—	
38			20:00	宵祭	頭人以下役前の者は、拝殿に着座。頭人たちは一の御前側から御供を献上。次に瓶子9台を献上。続いて小学生が榊を口にくわえ御供椀を高く掲げて献上。その後宮司による「司の舞」巫女による「真神楽」が奉納。	社殿		—	○	○	
39			21:00	ねりぞ 練初めの儀	習幣を用いて御船番の舞、當屋の奉幣の稽古がなされる。	神事会所	前日の習幣で練習済みで省略	—	○	○	
40			22:00	みふねこも 御船籠り	この日の夜、頭人・當屋などは宮灘に停泊している御船に籠る。	宮灘の御船	数分で退出	—	▲	▲	
41		21:00頃	トロー・トロー	21時、22時、24時に青年団などが囃しながら巡る	拝殿前→地区内	宵祭と並行して行われる	—	○	○		
42		4月7日	9:00頃～		両當屋、大綱前にて祇候。参拝者を受け入れる。	神事会所	参拝者には干柿、イカ・コンブに御神酒で接待がある	—	○	○	
43			9:30	【例大祭】	頭人以下役前の者などが出席する。	神社	青柴垣神事とは別の神事	—	○	○	
44			9:00～ 7.5回	トロー	当日は、七度半のトローが地区内を巡る。行列は、宰領(2名)を先頭に、ササラ、鎧武者(4名)、獅子頭(2名)	地区内	(R5) 11時のものしか確認できず。 (R6) 宰領(2名)を先頭に、ササラ(4名)、鎧武者(2名)獅子頭(2名) 9:00,9:45,10:20,11:00,11:30,13:00,13:10 (7度半、8度目は行きのみ声を出す)	—	▲	○	
45			13:30	青柴垣神事本祭 開始	参進、開扉、奉幣、上の神楽、巫女舞2座	社殿		—	○	○	
46				おけど 御解除・御注連懸	二の當屋側が神職を迎えに行き、宮司・頭人・巫女らは真の幣を先頭に神事会所に入る。一の當屋側は会所で待ち宮司一行を迎える。巫女が注連縄の碓い、御注連懸、三献の儀(芋膳)を終えると宮司帰殿。両當屋が大綱の前で幣を振る。	拝殿・神事会所	御船の注連懸は漁協関係者が会所前で受取り掛ける 宮司は本殿へ、二の當は拝殿前で拝んで会所に戻る。頭人は行列に加わらないため、そのまま拝殿で座る。	—	○	○	
47	(R5) 15:00 (R6) 15:30		おじんだて 御陣立・御船下向	15時頃御船添番が拝殿に向かい、御船の準備が整った旨を御船番に伝え、御船番は神職に伝える。この後、波剪御幣の唐櫃を先頭に、神職、祭器具を奉持した役、御棚の供物が行列し宮灘へ下る。當屋は両脇を抱えられながら行列して宮灘の御船に分乗。すべての役の者が乗船すると御船は灘を離れる。	神事会所、拝殿→御船	御陣立・御船下向に偏木は加わらない。	—	▲	▲		
48			御船ノ儀	御船の中では御船番によって當屋の化粧直し、イスズ箱を用いての神酒三献があり、奏者番がハンボを抱えおこわが振舞われる	御船内	御船は離岸せず、宮灘で行う。 おこわの振舞なし。	—	▲	▲		
49	(R6) 16:00		面役下向	猿田彦の面役は二の鳥居まで、鉦女の面役は宮灘まで拝殿より下りてくる。	拝殿→参道		—	○	○		
50			田楽下向	偏木の先導で巫女が御船まで下りてきて、御船内にて古伝の田楽ノ舞をする。	拝殿→御船	巫女2人が打掛を被り、顔を隠した状態で御船に向かう 田楽は乗船するが、偏木は鳥居で待機	—	○	○		
51	(R5) 15:00 (R6) 16:30		下船	當屋以下は下船し神具類も下ろされる。下船の際、巫女はあや笠をかぶり、小忌人は當為知に背負われカツギに覆われ供人も背負われる。ササラを先導に拝殿前まで進む。ササラは途中「テンガラス スーヤ アラス コラス ドッコイス」と唱えながらテンガラスを擦りながら舞う。當屋は拝殿前で再び化粧直しを行った後に拝殿に上がる。	御船→拝殿	化粧直しの間、小忌人は拝殿前で當為知から降りて歩いて会所へ戻る。続いて波切御幣、御供と拝殿内に入る。 (R5) ササラなし	—	▲	○		
52	(R6) 16:50	御供献上	御船から下した供物は本殿に供えられる。	御船→拝殿	當屋の化粧直しの間に行う。上官が幣殿の神職まで運ぶ。	—	○	○			
		閉扉、お慶びを申す	宮司が閉扉(一・二の本殿)。上官1名ずつが宮司の前に進んでお慶びを申す。	本殿	閉扉後、宮司は拝殿へ	—	○	○			
53	(R6) 17:00	ほうへい とうき 奉幣・當指し	供物を供え、神社側から小幣が下されると一の當屋から奉幣の儀を行う。奉幣の後に次年度の當屋の當指しがなされる。	拝殿	當屋は拝殿に座したまま。 次期當屋が不在のため、なし。	—	▲	▲			

整理 番号	特殊 神事名	日程 下線:本祭	時間	行事名	内容	場所	実施内容	R 4	R 5	R 6	
54	青 柴 垣 神 事	4月7日		みふねぼん まい たっしや 御船番の舞・當為知 すもう 相撲	手渡された扇を使って一の當屋側から御船番 によって御船番の舞がなされる。この時、鞆 に刀を戻す際の音によって當屋は目を開き、 神憑り状態は解ける。続いて、當為知相撲と なる。	拝殿	(R5) 當為知相撲せず。 (R6) 座ったまま相撲をとる。行 司は御船番が交代し4回勝負。(一 の御船番)一の當・二の當、(二の 御船番)二の當・一の當と引き分け て終了。	—	▲	○	
			(R6) 17:40	神事終了	宮司始め神職退下。			役前が揃って社務所まで見送る。	—	○	○
55			～18:40	直会	神事終了後、役前・上準官は神事会所に赴き 直会を行う。	神事会所	御神酒のみ(簡略化)	—	▲	▲	
56		4月8日	11:00	後宴祭	役前・上準官・新旧當屋などが集まり、神社 にて後宴祭が行われる。巫女舞が奉納され、 宵祭などに供えられた供物が神社から下げら れる。	本殿・拝殿		—	○	—	
57				地主社参り	後宴祭終了後、神職数名が御船に供えた籠1 つと習幣を地主社へ供える	神事会所→地主社	神職のみで行う	—	○	—	
58				客人當頭指し	続いて、客人當の當指しとなる。宮司が本殿 から拝殿に降り、候補者の中から神籤によっ て客人當が選ばれる。下げられた供物を神事 会所に運び役前、上準官全員に分配。	本殿・拝殿・神事 会所	當指し実施せず。R5・R6 次期客 人當は不在、供えた蒸米や波切御 幣を分配	—	▲	▲	
59				まなばしき 真魚箸式	宮司も参加して直会(真魚箸式)となる。三献目 の頃、六社参りを終えた新客人當がその世話 人とともに神事会所に挨拶に訪れる。	神事会所	客人當不在のため六社参りなし	—	▲	▲	
60				つぎこし 注越の儀	両當屋と新客人當とその世話人がそれぞれ銚 子を持ち、一の當屋と新客人當、二の當屋と 新客人當の世話人はそれぞれ背中合わせにな る。一の當屋側は、新客人當が一の當屋に背 中越しに銚子から長柄の銚子に酒を注ぐ。	神事会所	両當屋、新客人當は不在のため、 代わりに世話人が行う。	—	▲	▲	
61				夕方	両當屋・客人當納め の神楽	巫女舞3座。両當屋と客人當はこれで役目を 終える。	社殿	R5・R6 両當屋・客人當は不在	—	▲	▲
62			4月9日	17:00	新両當屋・新客人當 見参の神楽	巫女舞3座	社殿	不在のため実施せず	—	▲	▲
63		夕方		一度祭	當屋の忌みの生活の終了を示す祭り。	頭人、各當屋宅	仮當屋のため頭人宅でのみ実施	—	▲	▲	
64		4月11日	9:00	頭人宮遷し	旧頭人宅から新頭人宅にお宮を遷す儀。頭人 宮の祭具を一度神事会所に移し、宮内を掃除 し幣や注連縄を新しくする。	頭人宮、神事会所	頭人宮、本社、若宮、軸(客人社ご 神体)の順で絹垣で隠しながら会所 へ遷し清掃。その後元の位置へ戻 す。莫塵、竹、注連縄、紙類、榊 は全て新しくする。	—	○	○	
65			11:30	オシメカケの儀	役前の神棚前に注連縄を取り付ける。 4月11日、5月1日、12月1日の年3回。	役前宅	R6は両當屋、客人當が不在のた め、頭人宅のみ行う。	—	▲	▲	
66			12:30	烏帽子着	宮司を迎えての當開きのな行事。 上官・準官のほか、親戚関係者なども参加。	神事会所	前頭人、前々頭人と準官2名が接待 役。お茶で始まり、2献後に膳が出 る(宮司・頭人・上官は高塗膳、新 頭人は高白木膳、以外は低塗膳)。 3献目後の「サカエ(4献目)」では 同じ盃を使い回し熱燗が出され る。参考『美保神社の研究』P197	—	○	○	
67	19:00		頭人納めの神楽・参 籠	巫女舞1座。これをもって頭人の長期間にわ たる忌みの生活は終了する。	社殿、神事会所		—	○	○		
68	4月12日	10:00	新頭人見参の神楽	巫女舞1座。新頭人はこれより1年間これまで 以上に精進潔斎し、さまざまな祭礼に奉仕す る。	社殿	新頭人のみ拝殿にあがる。神楽終 了後は新旧頭人が揃って社務所 に行き、辞令交付を受ける。	—	○	○		
未 調 査	神迎 神事	5月5日	2:30	神迎神事	沖の御前と地の御前に祀る神々を本殿に迎える 祭礼。真夜中に行い、港内では家々の明かり を消す。船中では神楽が奏されるため、この 神楽の音から「デンチャン祭」という通称で 呼ばれる。	宮灘→地の御前→ 清水鼻→宮灘→拝 殿→頭人宮		—	—	—	
R 6 観 察	虫探 神事	8月7日	3:00	むしぼしんじ 虫探神事	社宝の虫干しを行う神事。暗闇の中、宝物の 面や鳴物などを本殿内から取り出し、鞆鼓・ 太鼓・つづみなど乱拍子の神楽が奏され、神 霊の依り代である「面」を着した巫女が舞う。 参列者が拝礼を行った後、宝物を殿内に戻 す。	拝殿	役前は頭人・上席休番の二人のみ 出席(一・二の當屋、客人當は引 き受け手がないため不在)。これ に上官二人(一人は客人当代理を務 める)が世話人で出席	—	—	▲	
			3:45	むしぼしんじ どうにんみや 虫探神事 (頭人宮)	拝殿での神事終了後、役前は今回は頭人宮に おいて、御神体の面を取り出し、締め太鼓を 奏する(客人當)中で紙でなでる。	頭人宮	役前(R6は頭人・上席休番・仮客人 當のみ)が頭人宮に入り拝む。	—	—	▲	
			4:00	なおりい 直会	会所において芋膳にて直会。 途中、オナデ紙が神社よりさがる。	会所		—	—	▲	

整理 番号	特殊 神事名	日程 下線:本祭	時間	行事名	内容	場所	実施内容	R 4	R 5	R 6	
69	諸 手 船 神 事	11月27日		じぬしゅ よいまつり 地主社宵祭	神職 地主社祭の前日に宵祭りを執行する。	地主社		—	—		
70		11月28日		地主社祭	御祭神は、「事代主神」或いは「御穂須須美命」と伝わる。	地主社		—	—		
71		11月30日		甘酒作り	神職「諸手船神事宵祭(御供献上)」でお供えする甘酒を奉製する。	神饌所		—	—		
72		12月1日		上準官帳届	頭人 12/1時点での上官準官名簿を神社(宮司)へ届ける。	境内		—	—		
73				餅搗き				—	—		
74				オシメカケの儀	役前の神棚前に注連縄を取り付ける	役前宅		—	—		
75			夕方	客人當神楽参籠	客人當はこれより世俗との関わりを絶つ。	社殿・神事会所		—	—		
76		12月2日		御供奉製	宵祭のお供えである御供76台を蒸し、椀に盛りつける。御供とは白米を炊いたものである。	境内	旧巫女家筋の女性が神社から依頼を受け準備する	○	—		
77				甘酒拝礼、甘酒盛	宮司 お供えする甘酒に拝礼する。甘酒拝礼の後、旧巫女家が木瓶子に盛りつける。	神饌所		—	—		
78				潮搔	宮司以下神職、役前など 潔斎(海中で身を清める)。				—	—	
79				客人社祭宵祭	神職 客人社祭の前日に宵祭りを執行する。	客人社			○	—	
80			18:00~ 20:00	宵祭	青柴垣神事の宵祭に同じ、御供献上等行う。	社殿			○	—	
81			22:00	トーマー	港内に祭り始めの御触れを告げ廻る。	港内	実施せず		▲	—	
82			午前中	【新嘗祭】		神社	諸手船神事とは別の神事		○	—	
83		午前中	甘酒作り	米と麴を混ぜたものを石臼で挽いて作る。	客人當宅	オモテの間にて		○	—		
84		12月3日	12:00	客人社祭	頭人・客人當ほか役前上準官参列。	拝殿→客人社	供物を入れた唐櫃を下げ、一行が参進。	○	—		
85			13:00	客人社祭直会	客人社祭の直会。客人當が準備など全て担う。	神事会所	芋膳、なますなど準備は客人當家。本祭開始のため早々に切り上げる。	○	—		
86			13:30	諸手船神事本祭開始	宮司以下神職、役前、巫女等社殿に参進。開扉、奉幣、巫女舞など。	社殿			○	—	
87				御籤	宮司「みくじ」によって乗船者を決定。 真劔持ち…2名(両當屋があたる) 大權…2名(上官より選ばれる) 大脇…2名(客人當・上席休番があたる) 権子…12名(準官より選ばれる)	拝殿	名前が呼ばれた場合でも、代理が務めることもある。 衣装の取り合いはなく、受け取った者から順次会所へ向かう。		○	—	
88		12月3日		宮灘下向	乗船者は神事会所で衣装に着替え、宮司以下宮灘へ下向。	参道		○	—		
89				諸手船分乗、真劔奉納、 應答祝言	大權以下「一」「二」に別れて分乗。まず、客人山麓まで漕ぎ進め、客人社に拝礼。 次、三度に乗り戻す。 次、真劔持ちは真劔を奉納。應答祝言へと続く。三度乗り戻し帰殿する。	宮灘	宮司と頭人は宮灘に建てた仮小屋に入る	○	—		
90				御供頒賜、お慶びを 申す、退下	閉扉し、宵祭より献上した供えを撤し、一部を役前上準官に頒賜する。両當屋付きの上官一名ずつ 宮司の前に進んでお慶びを申す。	社殿			○	—	
91				真魚箸式	青柴垣と同様	神事会所	コロナのため行わず		▲	—	
92		12月4日	18:00~ 20:00	一度祭	青柴垣と内容は同じく、忌みの生活の終了を示す祭り。 頭人宅で祭りを行った後、客人當宅でも同じ祭りを行う。	頭人宅・客人當宅	道具類はその家のものを使用。	○	—		